



早稲田大学 立川稲門会会報

2013年12月2日
第18号

発行 立川稲門会
事務局 立川市富士見町2-36-43
森山善弘

TEL 042-523-7601
FAX 042-523-7605

<http://www.bz-jpn.com/tachikawa-tohmon/>

会長交代

中村克久さん就任挨拶

ありがとう そして 未来へ



会長 中村克久

この十月に立川稲門会は第四十回の総会を迎える事が出来ました。本来は来年が四十周年ですが年に二回の総会をした年もあり、今年が四十回総会と云う事になります。創立総会に奔走した私にとってこの節目の年に会長に推挙されたことは有難いと思うと同時に責任を感じます。

第一回の創立総会が行われた年は南ベトナムで解放戦線がサイゴンを制圧した年でさらばハイセイコーが流行歌で歌われた年でもあります。

イルカのなごり雪や布施明のシクラメンのかほりを覚えている方も多いと思います。

爾来、設立し運営に尽力

された多くの方々にあらためて感謝したいと思います。

私はこの三十年の間、青壮年期の欲望探求に追われ、立川稲門会の運営から遠ざかっていました。その贖罪をこめて、新しい時代へのバトンタッチを担ってゆきたいと思えます。

稲門会は母校への支援、会員の親睦、地域貢献という目的があります。

私は運営にあたり三つの活動方針を皆さんに示しました。

第一が会員の拡大です。

市内在住の卒業生は凡そ一〇〇〇名、うち大学本部の校友会会費納入者は二〇〇名です。一方当立川稲門会入会者数は一三〇名です。

まずはこの二〇〇名の校友に当会への参加を呼び掛けたいと思えます。その為には活動の活発化・活性化です。若い会員や女性が参加しやすい、参加したくなる会にするためにはどうしたら良いかを皆さんと考えてゆきたいと思えます。

現在、立川稲門会の多くの会員が議会、自治会、生涯教育、市民祭、ボランティアなど地域の諸活動に参加しています。地域活動の中で偶然ワセダの卒業生だと知ることも多々あります。

それらの活動で知り合ったワセダの仲間立川稲門会の活動に入ってもらおう事も大事なことと思えます。

「地縁」があつてこそ「学縁」と思えます。

第二はホームページの利用です。

当会の活動状況はHPで公開していますが、残念ながらアクセス数は未だ多くはありません。観桜会、納涼会や散策の会、麻雀の会、カルチャーの会、早稲田スポーツ支援の会などの同好会活動をリアルタイムに知らせてゆきたいと思えます。

第三は会則の検討です。

立川稲門会の存在の基盤は会員の親睦です。したがってこの親睦を害する行為に対しては退会ないし除名をする規定を挿入したいと思えます。

私はどのような役職経験者であれ、退任したら一会員で良いと考えます。顧問や相談役という役職は不要と思えます。会長や幹事長はむろんのこと、いずれの役職も、その役目をさせてもらったという感謝で退任すべきと考えます。

更に、当稲門会には慶弔規定がなく会員の慶弔時に祝電や弔電なども手続きが決まっています。この点も明確にしたいと思えます。いずれの会則変更も皆様の総意で決まるものです。活発な議論をお願いしたいと思います。

会員の皆様もぜひHPを常時ご覧いただきたいと思います。

最後に、和田宏さんと榎本信行さんのご逝去に際し、深甚なる哀悼の意を表し、心からのご冥福をお祈りいたします。

ておりました。立川稲門会に参加することで、楽しくて元気になり、エネルギーを充電できるようにできたらしいなと思っています。

知らないことが多く、教えていただくことばかりですがよろしく願います。失礼があります。

表題のテーマで原稿依頼を受け、改めて地域活動とはどういうものなのかを考えてみた。イメージとしては奉仕なのだろうか。町会、自治会の役員などはその代表的な活動なのだが、今やその範ちゅうは非常に多岐に渉る内容になっている。

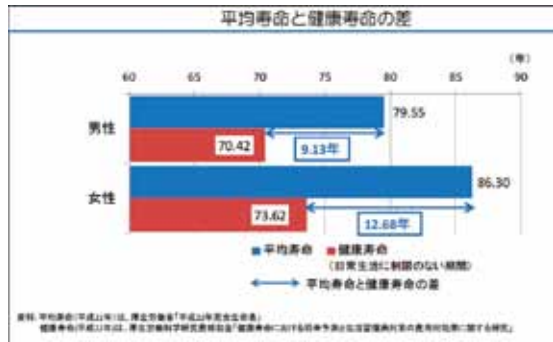
ご存知のように立川稲門会メンバーも、福祉、シニア、生涯学習、防災、国際交流と様々な分野で活躍している。今回私がそうした方々を差し置いて地域活動について書くのは心苦しいと思ったが、これら分野と少し違った活動報告も良いのではと思います。

さて、私に関わっている活動ですが、主なものとして現在次に二つがある。

①立川シテイマラソン

②立川いったい音楽まつりで、共に地域としては立川

ようと決心をしました。六十歳に胃がんで手術した時の辛さを改めて思い出したのがきっかけです。



元気で自立し充実した毎を送り苦しまずに最期を迎えられれば最高に幸せな人生といえます。現役時代の私は健康のことも全く頭になく忙しく走り回るような毎日でした。そんな時胃がんが見つかり辛い思いをしました。それでも幸い健康を取り戻しました。

らっしゃいます。一方男性は仕事中心で退職後に人間関係を築くのが苦手のようです。テレビと読書がお友達で会話の無いような生活には耐えられませんが皆さんはいかがでしょうか。退職後にはキョウヨウとキョウイクがこれからは重要だそうです。既にご存知の方もいらっしゃるでしょうが天声人語に掲載されましたので紹介します。キョウヨウは教育ではなく(今日、行く所がある)。人生後半の過ごし方のヒントになりそうですが如何でしょうか。私は手始めに毎日が現役時代のように義務感ではなく自分に目標を持って継続的に楽しむ事を考えました。実践するには具体的により具体的に毎日のプランを考えることです。

立ちから買い物とキョウイクとキョウヨウを念頭に修行をしています。又市の広報で私が出来るような地域活動(パソコン講座)へ参加し仲間との交流も楽しんでいきます。旅も好きなので一人旅・夫旅・友達旅とプランを立てることから始めます。又旅先での人との出会いも大切にしています。そして毎日のラジオ体操は健康寿命を延ばすのに役立つと思います。



「人生の下り坂に老荘思想」の記事が新聞にあり目に留まりました。この教えを「地位と肩書きとかに関係なく感謝の人間関係を何人と築けるか」として紹介します。又「足るを知る者は富む」と認識し、分相応に身の程を知る生き方をして行きたいと思えます。老子の教えは愉快に人生を送る知恵を与えてくれます。又異色な生き方をしてる人に興味を持ちました。自分とは生き方が異なると思れる人々がおられます。なぜその道を選びどのような過ごし方か興味深いです。人の考え方、生き方は沢山あることを学び自分を再発見する事が出来ます。最後に稲門会の方々は健康寿命を益々伸ばし人生を楽しまれている方が大勢いらっしゃいます。私も諸先輩を見習い、頭と体を鍛え毎日を楽しく健康に過ごして行きたいと思っています。

和田宏さんをしのんで

森下公明

和田さんから電話を頂いたのは今年の八月八日でした。淡々と自分の生きる時間はそう長くはなく、覚悟は出来ている旨の話でした。返す言葉もなく病院をたずねましたが、教えてはいただけず、静かに身の回りを整理しているので見舞いなどは勘弁して下さいとのことでした。二ヶ月半後の十月二十二日、和田さんが逝かれたとの連絡を奥様から頂きました。焼香はおりしも立川稲門会の総会があった二十六日にさせて頂きました。私は仕事の関係で十年余り立川稲門会に参加しておりませんが、散策の会がご縁で和田さんと知り合えたの七年ほど前でした。以後自宅が近いこと、私の好きな作家が吉村昭さん、司馬遼太郎さんであったこともあり、なぜか話があい、加えて奥様も稲門の方でご夫婦でお付き合いらして頂きました。

話題には事欠かない和田さんでしたが、私にとって一番印象に残っているのはお話ではなく立川第二小学校での運動会です。昨年、一昨年の運動会でお孫さんを見守るなんともいえない嬉しいような優しい顔の和田さんです。今年九月はみえませんでした。五年生になられたお孫さんの姿をさぞみられたかったことでしょう。

昨年、新装出版された吉村昭さんの「虹の翼」の解説を書かせてもらいましたと本を届けてくださいました。その時に又本を出したいと言われていたのが記憶に残っています。最後の電話の「覚悟している」の言葉の裏に、もう一度本を出したいとの思いが秘められている気がしてなりません。和田さんの故郷若狭のかれいとへしこを取り寄せ、近々仏前に伺って聞いてみたいと思っております。

心からご冥をお祈り申し上げます。

榎本君を追悼して

大岩泰世

榎本君、貴兄の御逝去の知らせを受け、一瞬心臓が凍りついたような思いを受けて以来、既にひと月近くも経ってしまいました。貴兄とは、立川稲門会で会長、幹事長として僅か二年間の短い間でありましたが、緊密なお付き合いの中で楽しく過ごさせて頂きました。

私達は、共に立川の地に生まれましたが、貴兄は立川の北側、私は南と立川高校で一緒になる迄は全く無縁な人生でしたが、高校最後の三年生のときはクラスが同じになりお付き合いが始まりました。

しかし、貴兄は法科、小生は技術系とそれほど親しいお付き合いとはなりませんでしたが、大学が同じ早稲田になり、心の通じ合う関係で過ごさせて頂きました。

その後貴兄は、立川稲門会には創立時より参加されたと聞きますが、小生は都内勤務のサラリーマンとい

うこともあって勤めの終わり頃の平成八年頃に稲門会に参加させて頂きました。ところが、在籍三年目頃、

貴兄から、「会長に推薦され引き受けるハメになったので、大岩君、一緒にやって助けて欲しい」と懇願され、役目が幹事長と言われ、新人の私には無理と固持したものの、一緒にやれば大丈夫と説得されてしまいました。その後は、貴兄の援助もあって無事に職を全うすることが出来、感謝している次第であります。

一方貴兄は稲門会の要職にも関わらず、昭和四十年に弁護士になられて以来、参加された砂川基地拡張反対闘争の弁護士を続けられ、最後まで活躍され重鎮の一人として全国に名を轟かせたことは周知のことです。

その事例として沖繩の大田知事の砂川闘争類似の訴訟の弁護団の一員に要請されるなど、社会派弁護士として名を馳せ、横田基地の住民反対運動の弁護団と一員としても、係争途中であり、経験豊富な貴兄を失い惜しまれていることと思

ますが、一方貴兄としても心残りであったのではないかと残念に思えてなりません。

社会派弁護士としてのイメージは、強面でしょうが、貴兄は真逆に温厚で、優しく、人当たりも良い一方忍耐強く、知人を紹介し相談に乗って頂いた際にもその人柄にさすがだなと感じたこともありませう。

我が稲門会で現職を退いてもお人柄で何かと相談に乗って頂いたのに、もうお会いできないと思うと悲しいと共に寂しく残念であります。

お忙しい人生であられたと思いますが、ここらで全てを忘れ、どうか安らかにお休みください。



編集後記

☆中村克久会長体制がスタートして初めての会報発行である。広告掲載はやめよう、ページ数も減らそう、同好会記事はホームページにまかせよう、という方針で進めてきた。また、従来より、少し大きな文字をめざして何とか六ページに収まった。☆世の中、携帯からスマートフォン時代のなってきた。尚且つ通信回線も高速なものになってきている。同好会等のイベントの状況、結果、感想をその場で手軽にすぐに投稿して公開する、そういうサイトを構築していきたいと考えます。そして、誰かが別の視点からコメントを書くという盛り上がりを目指したいものです。また、投稿によって、エビダンスが蓄積され、活動内容がみえてきます。今年の活動方針の一つ、「会員の拡大」は同好会活動の活性化によっても、もたらされるが、投稿サイトも微力ながら活性化につなげられたら。

(岩瀬英治記)